

## 2022 年度 第 1 回市立須坂図書館協議会 会議録（要旨）

開催日時：2022 年 7 月 4 日（月）午前 10 時 30 分～11 時 30 分

開催場所：市立須坂図書館 第 1 講習室（西館 2 階）

出席委員

富沢委員、小林委員、宮尾委員、竹前委員、尾島委員、坂口委員、小林委員、馬場委員、小林委員

欠席委員

なし

事務局

峯村文化スポーツ課長、文平図書館長、北澤管理係長

配布資料

- 委嘱状、2021 年度図書館事業報告及び 2022 年度事業計画
- 2021 年度須高読書感想文コンクール入選作品集

会議状況（各事項について事務局説明）

（1）委員長・副委員長の選出について

互選により、委員長は尾島委員に、副委員長は竹前委員に決定した。

（2）2021 年度図書館事業報告について

（3）2022 年度図書館事業計画について

（4）質疑

委員：

コロナ対策で今までいろいろ制約をしてきているが、利用者から不満を聞いたことがあれば教えてほしい。

事務局：

須坂図書館では、コロナ対策として常に窓を開けて換気をすることとし、虫が入らないように網戸を修繕設置した。利用者には、温度調節しやすい服装で来館するように呼び掛けている。読書室は席の数を減らしている。

返却された本は、コロナ禍になる前から表面を拭いていたが、コロナ対策として、1 冊ずつ、より丁寧に消毒液で拭いて書架に戻している。どんなに丁寧に拭いても、利用者からは、不特定多数が触ることがない電子書籍や電子図書館の導入希望、図書除菌機の設置希望があった。図書除菌機については、昨年 5 月に小型のものを 2 台購入し、密を防ぐために、階段下と、入口の風除室の 2 カ所にそれぞれ設置した。利用希望者は、貸出手続きをした後に、ご自身で除菌機を使っていただくようにしている。

来館時に、入口で利用者カードを使ってチェックしてから入館いただくのは、感染があったときのために利用者を把握し必要により伝えることができるよう市で決定したものだが、利用者からは「入口で荷物を置いて利用者カードを読み込んで入館すること自体がわずらわしい」「面倒だ」「そろそろチェックをやめたらどうか」等の声はある。

ふらっと新聞を読み立ち寄っていた人の中には、コロナ禍になってから全然来館しなくなった人もおり、職員の中からも「いつまでチェックを続けるのか」という意見が出されたこともあったが、利用

者全員の命を守るために必要なことだと職員も考えており、みなさんに安心して気持ちよく使っていたために、もうしばらくこの状態でやっていこうと考えている。

今日は蔵書整理期間中で、図書館を休館して作業をしているので、会議終了後、時間があれば、館内の様子や設備等をご覧いただく時間を設けたい。

電子書籍の導入については、本を保管する倉庫や流通コストがかからないので個人で買うと安いですが、図書館で電子書籍を購入するには、1冊を何人もが借りるので、1,280円のものも4,000円～6,000円になってしまう。一つの自治体で、従来の紙の本を扱う図書館と電子図書館の両方を持つことは難しい。長野県では、全国で初めて、すべての市町村と県とが協働して電子図書館に取り組みようと、昨年からの話し合いを重ね、プラットフォーム(基盤)を県が負担してつくり、コンテンツ(電子書籍)を77市町村で負担し、すべての県民が利用できる協働電子図書館(愛称「デジとしょ信州」)が8月5日からスタートすることになった。簡単に登録手続きができるので、委員の皆さんも利用していただき、利用しての感想や意見をお寄せいただきたい。

委員：

蔵書冊数と貸出冊数と登録者数の推移について、コロナ禍で何か影響はあったのか。

事務局：

蔵書冊数は、年度末の蔵書冊数を記載している。前年の年度末の冊数に、年度内の購入や寄贈があった冊数を足し、除籍する本があれば引いて算出しているが、蔵書冊数は年々増加している状況。昨年度は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金から、図書購入費の一部を賄った。

登録者数も年度末の登録人数を計上している。新たに利用者カードをつくる人がいけば増えるが、遠くへ引っ越しなどの理由で利用者カードを返還された数は引いて算出している。

コロナ禍で、利用者カードを持っている人だけ入館できる期間があったり、入館時に簡単に受付チェックできるようにするために、新たに利用者カードをつかった人が昨年は多くいた印象がある。

貸出冊数は当該年度の貸出冊数を計上している。昨年度も一昨年度も、コロナ禍で、入館せずに貸し出しを行う「申込貸出制」としていた期間があったため、自分で本を見て選べない状況となり、貸出冊数が減ったと考えられる。3年前までは、年度によって、貸出冊数が増えた年もあれば減った年もある。

委員：

小・中・高校と、須坂図書館との連携した活動はあるのか。

事務局：

文化スポーツ課と子ども読書活動支援研究会がすすめている「子ども読書ちゃれんじ」では、須坂図書館も事務局として小学生の読書活動を支援している。

読書感想文コンクールでは、須高図書館協会の事務局として、小・中学校と連携している。須坂小学校へは「ぶっくる一文庫」と名付けた学級文庫を配置している。これは、須坂図書館の配本室の本を、地域公民館や学校に貸し出して支援する活動の一環で、今年で2年目になる。

7月末に須坂小学校の先生方と一緒に全部のぶっくる一文庫を入れ替える予定でいる。今後、市内の各学校でも同様の活動ができれば良いと考えている。

中学生や高校生の活動としては、今はコロナ禍で中止しているが、秋の図書館まつりのときにビブリオトークを行い、中学生や高校生自身が、友達に本を紹介していく、本の良さを発信していく活動を支

援している。

高校との連携活動としては、毎年、信州岩波講座の高校生編を担当し、講演会を通して、高校生の読書活動のきっかけづくりをしている。昨年度はコロナ禍でオンラインでの開催となったが、有名な人に来て、直接話を聞いたり質問して刺激を得られる貴重な体験を大切にしていきたいと考えている。

また、須坂図書館内にWi-Fi環境を整備したことで、小・中学生は学校から貸与されたタブレット端末ですぐにアクセスできる状況になっており、高校生も、スマートフォンなどを使って読書室で学習する姿を見かけるようになった。